あ と が き

国内外の多くの教育機関と同様に、筑波大学では COVID-19 の感染拡大防止のため、2020 年 4 月からオンライン形式での授業実施に大きく舵を切った。特に、入国を厳しく制限された国外留学生を対象として授業を行わなければならなかった CEGLOC 日本語教育部門にとって、オンライン形式での授業の必要性に迫られた。本号には、このような緊急事態への対応に関して 2020 年度春学期に学生に実施したアンケート調査に基づいた報告（ヴァンバーレン）を載せている。このような実態を受け、学生のみならず、教員全員にとっても貴重な学習機会となった。この苦い経験を通して、オンラインによる授業やそれを一部取り入れたハイブリッド授業の可能性について考えさせられた。

ヴァンバーレンの報告以外、本号に掲載されているのは「ビフォーコロナ」における最後の取り組みを取り上げる 4 本の報告である。そのような意味では、懐かしく読まれる読者も多いであろう。次号ではパンデミックによってもたらされたチャレンジと戦った実践取り組みに関する多くの論文および報告を期待する。投稿者の方々、そして査読者の方々に感謝を申し上げたい。本論集は皆様のご協力によって成り立っているものである。

2021 年 3 月

グローバルコミュニケーション教育センター日本語部門
日本語教育論集編集委員長
ブッシュネル　ケード